

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 2 ガンディー	第一次世界大戦中、イギリスはインドに対して戦後の自治を約束したものの、大戦後に制定されたローラット法は令状なしの逮捕や裁判なしの投獄を認める高圧的なものであった。これに対し、南アフリカでの人種差別反対運動から帰国していた指導者が、非暴力・不服従による抵抗運動を呼びかけた。
問2	答え 4 サアド・ザグルール	第一次世界大戦後の1919年、エジプトではイギリスからの独立を求める運動が激化し、その中心となったワフド党を率いたのがサアド・ザグルールである。彼はイギリスによって逮捕・流刑に処されたが、これがさらなる大衆運動を呼び起こし、1922年の独立承認へとつながった。独立後の1924年には首相に就任した。
問3	答え 4 真珠湾攻撃	アメリカ合衆国は1930年代の中立を維持する方針から、武器貸与法の制定などを経て徐々に連合国への支援を強めていたが、1941年12月8日（日本時間）の日本軍による真珠湾攻撃を直接の契機として、正式に参戦を決定した。
問4	答え 4 ワフド党	第一次世界大戦中の1914年、イギリスはエジプトを保護国とした。大戦終了後の1918年、サアド・ザグルールらはパリ講和会議にエジプト独立を訴える代表（ワフド）を派遣することを要求したが、イギリスに拒絶され逮捕された。これを機に激しい反英独立運動が起こり、彼らが結成した政治組織はのちに政党となった。イギリスは1922年にエジプトの独立を認めることとなった。
問5	答え 3 ヤルタ会談	第二次世界大戦の終盤にあたる1945年2月、ソ連の指導者スターリン、アメリカのローズヴェルト、イギリスのチャーチルによる首脳会談がクリミア半島で開催された。この会談では、ドイツの分割占領方針や、ドイツ降伏後3ヶ月以内とするソ連の対日参戦、極東におけるソ連の権益確保などが秘密協定として結ばれ、戦後の冷戦体制の枠組みを決定づける重要な契機となった。
問6	答え 4 魯迅	日本への留学経験を持つ文学者であり、帰国後に新文化運動に参加した。1918年に『新青年』に発表した『狂人日記』は、中国近代文学における最初の白話小説とされる。その後、代表作『阿Q正伝』を執筆し、当時の中国民衆の精神的弱点（精神的勝利法）を鋭く風刺・批判した。
問7	答え 4 スターリン	レーニンの死後、世界革命論を唱えるトロツキーを追放し、ソ連一国だけでも社会主義建設は可能とする「一国社会主義論」を主張して実権を握った。その後、五カ年計画による工業化や農業集団化を強行し、1930年代には大粛清と呼ばれる政治的弾圧を通じて絶対的な独裁体制を確立した。
問8	答え 4 真珠湾攻撃	アメリカ合衆国は、1939年に勃発した第二次世界大戦において当初は直接の参戦を避けていた。しかし、1941年12月に日本軍がハワイの真珠湾を奇襲攻撃したことにより、アメリカ国内の参戦世論が一気に高まり、対日・対独伊の宣戦布告を行って連合国側として本格的に参戦した。
問9	答え 3 コミンフォルム	アメリカが発表したヨーロッパ復興援助計画（マーシャル=プラン）に対抗するため、ソ連の主導により1947年に共産党・労働者党情報局（コミンフォルム）が結成された。これにより、東西冷戦における東側陣営の結束が強化された。
問10	答え 2 ディアス	1876年から（一時的な中断を除き）1911年までメキシコの大統領を務めた。外資導入による経済発展を進めたが、貧富の差の拡大や独裁に対する不満が高まり、マデロらの蜂起による革命で失脚した。
問11	答え 4 ニュルンベルク国際軍事裁判	第二次世界大戦におけるドイツの戦争犯罪を裁くために設置されたこの裁判は、終戦直後の1945年11月から1946年10月にかけて実施された。これは、1939年の独ソ不可侵条約締結から1949年の北大西洋条約機構（NATO）結成までの期間に該当する。同様の戦後処理として、日本に対しては極東国際軍事裁判が行われた。